

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1173800432		
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	加須グループホームそよ風		
所在地	埼玉県加須市永平939-4		
自己評価作成日	令和5年11月15日	評価結果市町村受理日	令和6年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設周辺は自然がいっぱいで、お客様の部屋からも季節を感じられる場所です。季節によっては、ベランダで家庭菜園を育て収穫した野菜を皆で美味しく味わうという喜びをしています。又、他施設では、受け入れが困難な方でも、出来るだけ受け入れを行っています。本人にとって、何が 必要なのかを十分に検討し、かかりつけの医師、看護師と連携し、早期の適切な医療が提供できるよう支援に努めています。また、毎月イベントを行い、少しでも楽しんで過ごして頂けるように、スタッフ同色々なアイデアを出し合い、参加して頂く事で、お客様が安心できる環境を作り上げる事を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・コロナ禍にあって、「事業所内でいかに入居者に楽しんでいただけるか」を第一に考え、イベントなどを工夫し、その様子を写真や月間報告書で家族に送られている。職員は「愛情」をもって入居者に接し、入居者が孤独にならず笑顔で過ごされ、おいしく食べ、快適に過ごされるよう常に心掛けられている。更にコロナの感染者を一人も出さなかったこともあり、家族との信頼関係が十分築かれている。
 ・運営推進会議の開催については、民生委員、建物オーナー、市担当者などが参加され、コロナ禍が緩和されてきていることから、会議の中で防災訓練などを実施し、近隣住民にも協力いただく取り組みが予定されている。
 ・目標達成計画の達成状況についても、災害対策を取り上げ、全職員に対して避難経路、緊急時の体制、家族の連絡網の作成、役割分担の確認が行われ、火災や水害時の避難方法の実践訓練が実施されたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	定期的に全体会議を行い、基本理念、方針、介護職として研鑽を積んでいます。各ユニットに理念を掲示し、常に確認をとっています。	専門職としての自覚を持ち、入居者と家族の懸け橋を目指し、入居者を一人ぼっちにさせないことが理念に謳われている。朝の声掛けなどから入居者の表情や変化を探り、その日その日が笑顔で過ごされるよう理念が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の観点から、今期は交流の機会がほとんど無いが、事業所での行事の時に、地位の方々を積極的にお呼びし、地域との密着を強化しています。	近隣との交流はまだ制限されているが、隣接のオーナーとは手料理をいただくなど緊密なつきあいがなされている。また、地域の民生委員の方などは運営推進会議の参加を通して連携を図るよう取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所に相談等があった場合は、親身になり、ご本人やご家族の意向に添った支援やアドバイスをさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での評価を真意に受け止め、各分野との連携を図り、サービス向上に努めています。	運営推進会議は、文書方式から集合形式での会議が行われ、民生委員、建物オーナー、市担当者などが参加されている。コロナ禍が緩和されてきていることから、会議の中で防災訓練などを実施し、近隣住民にも協力をいただく取り組みが予定されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域密着型サービス事業所連絡会でケアサービス等問題点を市と協力しながら認知症への理解が広く深まるよう取り組んでいます。	市担当者とは良好な関係が築かれ、日常的に介護保険の運用のこと、市のパンフレット作成への参加などを通して連携が図られている。コロナ関連の情報もスムーズに伝わり、入居者へのサービスの向上に繋がられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解を深める為に、3ヶ月に1回会議を開きケアを向上させ、特に言葉遣い等に注意し、職員間で意識し合える環境作りをしています。	言葉使いには特に注意を払い、「子供扱いしない呼び方」や「ダメ、待ってて」などへの柔らかな言葉の工夫などに取り組まれている。身体拘束廃止委員会も定期的に開催され、理念にある「専門職としての自覚」を持つよう周知が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、虐待についての理解を深め、お客様の生活の向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、相談や問い合わせがあった場合や、お客様の状況に合わせて対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様やご家族様に理解して頂けるようにゆっくり丁寧に説明をしています。疑問点には必ず返答し納得できるまで向き合っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、状況報告書にお客様の体調の様子等を報告しています。又、面会等でご家族様に会った時に日常の様子を報告させて頂いています。	入居者からは「家族に会いたい」、「〇〇を買ってきて」などの意見要望が出され、出来る範囲で対応されている。家族とは随時、入居者の状況を伝え、お便りや電話、面会だけでなくラインでの情報交換も行い、意見や要望をお聴きしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を行い、職員の提案や業務内容等意見交換を行っている。又、申し送りノートを活用し発信している。	フロア間で職員がそれぞれの入居者の情報を共有することで、お互いの気づきも生まれ、サービスの質の向上につなげられている。それぞれの入居者について、どのような対応が良いかを話し合い、実践し、また相談し合うよう取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更改時に面談をし、働きやすい環境等を話し合いながら、一緒に業務の評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為、施設内研修を行い、ケアの向上に努めている。又、地域での勉強会や、社内研修にも参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ施設間で協議会や意見交換会を実施しており、協議会の際には、他センターへの訪問をし、管理者・現場職員との交流出来、情報を共有し、向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心感を持って頂ける様に常に、笑顔で接し、お客様のご要望に出来るだけ添える様に、傾聴し支援しています。信頼関係を築ける様にコミュニケーションも大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から入居に至るまでの経緯や要望を伺い、ケアプランにしっかりと残し、実践する事により、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か、必要でないか沢山の情報を収集し、一番必要な支援は何かを皆で出し合い、その人らしく楽しく無理なく生活できる支援を見つけていく努力をしている。又、訪問看護師や協力病院の往診についても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で職員とお客様が会話を楽しみながら教えられたり励まされたり共に支え合う事で信頼関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から面会を促し、ご家族にお客様の日頃の様子を伝えていきます。また、毎月の現状報告書にも、お客様の状態を文書や写真をのせお渡ししています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスが五類に移行後、今期は交流の機会が増え、徐々にご家族や知人友人らといつでも気軽に訪問や外出・外食が出来る様になっています。	外とのつながりが少ない分、中での取り組みを充実させ、遊び、ラジオ体操、リハビリ体操、昔の歌謡曲や童謡をみんなで歌うなどを楽しまれている。また、家族が来られて一緒に食事をしたりすることもあり、思い出を忘れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様の関係や身体状態を配慮し、食事席やレクリエーションの席等を配慮しコミュニケーションが取れるように配慮しています。又、台所の後片付け等をお互いに協力して頂くように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も連絡が合った場合は、お客様、ご家族様の相談にのり、施設とご家族様の繋がりを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の思いやご家族の意向を傾聴する機会を持つように心掛け、その会話の中から希望や思いを把握するように努めています。また、意思困難なご利用者については、本人の意向を最優先に検討した上で、ご家族と共にさらに検討しています。	意思疎通の難しい入居者にはアセスメント時に家族から聞いた情報を基に対応され、表情を観察し、近くに誰かが寄り添うよう心がけられている。入居者一人ひとりにとって思いや意向に応えるには何が必要かを職員間で話し合われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人が困難な場合はご家族から暮らしぶり等のお話を伺うなど情報収集・把握に努め、できる限りその人らしく、望んでいる生活に近づけられる支援の検討を継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全体会議でのカンファレンスや日々の申し送り・バイタル測定・排泄・個人記録等の情報の共有に努めています。その中で、ご本人の希望や出来る事を見極め支援に繋げています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、申し送りの中でミニカンファレンスや介護記録等で、一人一人の生活状況の把握に努め、介護計画に反映できるようにしています。又、何か問題があれば直ぐにご家族へ連絡し調整を行い反映するようにしています。	入居者、家族の思いが具体的に表記され、その人のイメージが浮かんでくるようなケアプランが作成されている。課題(ニーズ)、目標、サービス内容が一貫しており、担当者、頻度、期間などは週間計画書に取り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット入力による細かな個別記録を付けている為、職員間で共有する事も簡単になった。それ以外にも全体会議でのカンファレンス等で情報の共有を行う事で、介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方にあったケア、ニーズを理解し、お客様の身体状況やご家族等に応じて、他施設への入所方法の相談に応じ支援体制を強化しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、中々交流が持てない時期ではあるが、徐々に行事等で、ボランティアの要請を行いお客様との交流を深めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護師や薬剤師と連携し、かかりつけ医に報告。またその結論や情報をご家族に報告・希望の聞き取り。その一連の流れや内容をかかりつけ医は把握し必要な医療を提供している。	かかりつけ医や専門医への受診には職員が同行し、結果報告は家族や職員はもちろん、訪問看護師、薬剤師、医師に伝えられ、適切な医療サービス受診できるようなされている。特に毎週来所する訪問看護師や薬剤師とは情報共有が都度行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回のラウンドがあり、施設は全員のお客様の現状報告を行っている。また、24時間の緊急時対応や相談にも応じて貰う事が出来る。医療への連携が必要とあれば指示が出る。社内看護師との連携もあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連携し、こちらでの受け入れ態勢の状況を的確に伝え、退院までの経過がスムーズに取れるように、また、退院後のケアについてもどのようにしていくか相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の家族の要望をまず伺っている。その時点では判断出来ない方もいる為、家族会等でホームの方針と家族の意向を伺っていき、一人ひとりの状態に適応した形で支援するように取り組んでいる。	重度化や終末期に際しては、入居者の状態の変化に合わせて医師も交えた話し合いが行われている。今後予想される症状やリスクについても伝えられ、家族と事業所とは信頼関係を築き、「品格ある看取り」を目指した支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議で定期的に緊急時の対応について勉強会や訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修は一部の人間に限られるが、その勉強会の内容を全職員に伝達している。また、水害・火災・地震等の訓練も行っており、役割分担も行動も明確になっている。ご家族・職員の連絡網を作成しています。近隣住民への協力も仰いでいます。	出来るだけ多くの職員に情報の伝達が行われ、火災や水害についてそれぞれの避難方法を構築されている。上階から下階、下階から上階への避難誘導の訓練も実践され、「布担架」を利用した訓練などが実施されている。	災害発生時の入居者の避難などには職員だけでの力では及ばないこともあると想定されることから、近隣住民の協力を得られる働きかけに取り組まれることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしいあり方を探索し、いつでもどこでもその人らしく生活できるよう対応を努めています。又、分からない事や出来ない事が増えてくる中で、出来る事に対し褒める様にし、自尊心を傷つけないように対応しています。	一人ひとりを尊重し、特にトイレや風呂場で羞恥心を抱かせないように対応されている。「よろしくお願ひします」、「ありがとうございます」、「すみません、ごめんなさい」、「触りますね」など、その都度感謝、謝罪、許可の声掛けが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話、表情を読み取りカンファレンスを行って支援しています。又、居室内で個別に話を聞いたりすることで、要望が上手く伝えられるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて出来るだけ支援するようにしているが、昼夜逆転の方については、日中に出来るだけ起きて頂いて夜間に眠れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に施設に来て頂き散髪を実施しています。希望があればご家族様の承諾を取り、髪染めも行っています。又、起床時には、温かいタオルで顔を拭き、頭髪を整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事だけでなく、季節に合わせたイベントを実施し、様々な行事食を提供しています。その際、ご自分で作る楽しさや食べる楽しさを感じていただけるよう支援させて頂いています。	日常の食事は業者からの食材を解凍、温め、小分けにして、食事形態も考慮し提供されている。イベント時はピザのテイクアウトを行い、普段とは違った雰囲気を楽しむことで入居者にも楽しんでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分摂取量を記録に残すことで、お客様の変化に気づけるように努めています。食事量の少ないお客様は担当医へ相談し、栄養補助食品等で栄養素を補っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアの声掛けや支援をし、義歯の方は夜間の義歯洗浄を行っています。月に2回の訪問歯科の往診もあり、お客様からの希望があれば相談や指導等を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄記録をし、そのお客様の排泄パターンをすべての職員が把握できるようにしている。日中はオムツを減らし、出来るだけトイレ誘導にて排泄できるよう支援している。その為立位保持の生活リハビリでの支援も行っている。	トイレでの排泄を基本に、車いす利用でも立つ感覚を忘れないように立位保持の訓練が行われている。また、プライバシーにも配慮し、自立の入居者には個室の外で見守り、状況に合わせてそばに付き添うよう心掛けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や便秘体操・食事・水分補給・乳製品の摂取等を実施しています。それでも解消しない場合は、かかりつけ医に相談し下剤等を処方して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施し、その日の体調やお客様の希望で入浴して頂く事もあります。また、入浴前にバイタル測定を実施し、体調管理に努めています。入浴が楽しめるよう、季節にあった入浴剤を使用し香り等を楽しんで頂いています。	脱衣所を温め、浴室は滑らないように、浴槽には手すりを設置して安心安全な入浴ができるよう配慮がされている。シャワー浴、機械浴なども取り入れ、入浴剤やバラの花を浮かべるなど香りを楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、好きな時間に居室に戻って休息をされています。しかし、昼夜逆転されている方には、日中出来るだけ声掛けやレクリエーション等に参加して頂いています。夜間にゆっくと安眠出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師は往診医と連携し内服薬の管理をしています。又、誤薬が起こらないように職員による何重もの確認と、与薬の際は顔と名前を確認し行っています。又、内服薬の変更があった場合は、副作用・用法・用量について再度確認をし、必ず申し送りを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝に体を動かす事は1日を健康的に過ごせます。また、洗濯物干しや畳み、食器洗いや拭きのお手伝いをして頂く事で、1日の流れや時間を感じて頂ける様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近年、新型コロナウイルス感染予防で、外出支援出来ませんでした。最近では、ご家族様と一緒に外出されたり、施設内でのランチを希望されるご家族様も増えてきています。個別の外出については出来ていない現状です。	リフト車を使用して健康診断に出かけ、その折にコスモスの花を見に行くなどの支援が行われている。外出機会が少ないことから、職員もアイデアを出し合い、ハンバーガーを食べに行くなどが検討されている。	入居者・家族の外出への要望もあり、コロナが5類になったことから、職員間で工夫をすることで、日常的に外出機会を増やして行かれることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染予防の観点から現在は一緒に買い物に出かけるような支援が出来ない状況です。施設から立替金としてご本人の希望があれば、必要な時に使用できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、家族の負担にならないよう配慮しながら対応している。また、ご家族からの電話は、職員が見守りし電話をしています。毎年、年賀状や暑中見舞いのやりとりをしています。その際、文字が書ける方はご本人に書いて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの掲示板を活用し、毎月、季節感のある行事を実施し、五感を感じられる様にしています。又、夏にはベランダで季節の野菜をプランターで育てています。	明るく広いフロアには入居者が自然に集まり、洗濯物たたみやゲーム、歌などを楽しまれている。共用空間の掲示板には行事の写真や予定が掲載され、入居者にイベントなどの関心を持っていただくよう取り組まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然とテレビの前に集まり歌を口ずさまれています。又、お客様がゆっくり新聞を読んだりし談笑できる様にテーブルを設置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に馴染みのある使い慣れた家具や日用品を配置し、ご家族様との写真やご自分の作品を飾る事で、居心地の良い空間で生活しています。最近では、お仏壇をお持ちになるお客様が増えています。	居室はすっきりと整えられ、移動時の転倒防止にも配慮がなされている。馴染みの家具や仏壇、ぬいぐるみ、クッションや写真を置かれ、自由に過ごしていただき、それぞれの個性ある居心地の良い雰囲気が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護度が高い為、ご自分で自由に動ける方も少なくなりました。しかし、自立に近い方が動きやすいように掲示物を増やしたり、職員と一緒にエレベーターに乗り違うフロア間の連携で、お手伝い等出来る事の継続を維持している。		

(別紙4(2))

事業所名: 加須グループホームそよ風

目標達成計画

作成日: 令和6年1月19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策。	年2回避難訓練を実施しているが、各ユニットがわかれていることから、日中・夜間帯の時の地震・火災・水害等の誘導について取り組んでいく。	夜間帯の避難訓練についてスムーズに誘導ができるように、近隣住民や消防署への協力体制を整え安全に避難できるよう災害に備えていく。	12ヶ月
2	49	外出支援。	コロナが5類になったことから、ドライブをしながら気分もリフレッシュしていただき車窓から四季を感じていただき、商業施設に外出できるよう取り組んでいく。	お誕生日等の特別な日には、近くの商業施設へ外出し、ランチやカフェで好きな物を召し上がり楽しい1日を過ごしていただけるよう取り組んでいく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。